



パンドラの鐘

作：野田秀樹 演出：熊林弘高

Pandora's Bell

これは「オイディプス王」。熊林弘高の直感

東京芸術劇場は、芸術監督・野田秀樹の戯曲をさまざまな演出家の手に託す。その最新回を手がける熊林弘高に話を聞いた。野田秀樹とその戯曲の魅力。

最初から「パンドラの鐘」と決めていた

演出家・熊林弘高は、寡作の人だ。彼のホームグラウンドともいえる東京芸術劇場では、2010年から2019年まで、「おそるべき親たち」「狂なおもて往生をとぐ」「かもめ」「お気に召すまま」の4本。東京芸術劇場プロデュース以外では、昨年までで、この他に4本を数えるだけ。合計、11年間で8本のみの演出。

「時間がかかるんです」と、熊林弘高は言う。この人ならではの鋭い戯曲の読み込みは、ぜいたくな時間の蓄積が支えている。

「あるとき、ピーター・ブルック（イギリスの巨匠演出家）が、シェイクスピアを演出するにはそれに関わる本を2、3冊も読めばいいと言った。その隣にペーター・シュタイン（ドイツの同じく巨匠演出家）がいて、いや、自分は全部読みたい、と反論した。ほくは後者です」

ここに紹介する「パンドラの鐘」の演出も、「野田秀樹さんの戯曲を演出しませんかと東京芸術劇場から打診されたのが、今から4、5年前」。もっとも、早い段階で、演目は「パンドラの鐘」に決めていたと言う。長崎出身の野田秀

樹が、原爆投下を直接の題材にした、1999年初演の悲愴なる名作。

「この戯曲に惹かれた理由は、ほくが北九州出身だから。長崎の原爆は、最初、（北九州市の）小倉に投下される計画で、たまたま曇りだったため、先行が長崎へ変更された。だから北九州は、平和教育に熱心でした。『この子を残して』っていう原爆の映画を小学校低学年のころ学校で観て、怖くて怖くて。そういう原体験があった」

この破滅は、ギリシア悲劇に通じている

欧米の近現代戯曲を多く手がけるこの演出家の目に、「パンドラの鐘」はどう映ったか。

「この戯曲は、ギリシア悲劇の『オイディプス王』だと思う。真実とは何かということを探求していくと、それが完璧なカタルシス（悲劇的な結末）になる戯曲。謎を解いた途端、一直線に破滅となる。そこが『オイディプス王』と重なります」

野田秀樹の戯曲の背後に、ギリシア悲劇の骨格あり。原作者も喜ぶ見立てに違いない。

「野田さんとお話しさせていただく機会があった、野田さんに『オープニングのシーンはこう

いう風にしたいんです』って切り出したら『いいね！ それ戯曲のテーマなんだよ！』って答えが返ってきたり。他の場面では『こういうのどう？』というように、野田さんご自身からのアイデアもありました。歌舞伎に型があるように、野田さんの芝居にも型がある。例えばセリフは早口、飛び跳ねるような運動量の多さとか。でも、それをやったところで『だったらNODA・MAPを観に行くよ』と言われてしまうわけだから、ほくが野田さんの作品をやる場合のフォルムを探すということが、今回、大切になるのかな」

作者・野田秀樹が演出した初演版と、今回の熊林弘高の新演出版とは、具体的にどこが違うのか、熊林弘高からヒントをもらおうと、①ひとり二役、②「鐘」の扱い方に秘策、③舞台はごくシンプル、という3つの答えが返ってきた。

門脇麦、緒川たまきの熊林演出経験組に、金子大地、松下優也、松尾諭、榎木玲弥のフレッシュなメンバーを加えたキャストチーム。作者・野田秀樹と、演出家・熊林弘高の出会いの鐘の音を、この役者たちが大きく、高らかに響かせる予感。それしかない。

取材・文：戸塚成

野田秀樹と「パンドラの鐘」

「パンドラの鐘」は1999年の初演。作者・野田秀樹の演出版と蜷川幸雄の演出版が、三軒茶屋と渋谷で同時期に激突上演されたことでも話題を呼んだ。太平洋戦争開戦前夜のある場所、考古学の発掘現場から、古代の鐘が出土した。その鐘に刻まれた碑文や、鐘そのものの来歴について、深まる謎の衣が、一枚、また一枚と剥がされていったその先

に見えてくる真実とは。古代史を擬製しつつ、近現代の日本が抱える病巣を抽出してみせるまっすぐな批評性。言葉遊びを駆使した一見軽やかなセリフ文体の奥に、作者の強い問題意識がのぞく。「パンドラの鐘」には、野田秀樹がしばしば採用するこうした戯曲手法が、原爆投下への強い抗議を滲ませながら、見事に結実している。

Kadowaki Mugi



Kaneko Daichi



Matsuo Satoru



Masaki Reiya



Kiyama Yukiaki



Chonan Koki



Hachijoin Kurodo



Matsushita Yuya



Ogawa Tamaki



2021年4月14日(水)～5月4日(火)※
※4月13日(火) プレビュー公演
シアターイースト 詳細はP8、10へ

作：野田秀樹
演出：熊林弘高
出演：門脇麦 金子大地
松尾諭 榎木玲弥
木山廉彬 長南洸生 八条院藏人
松下優也 緒川たまき

びわ湖、兵庫、金沢、
水戸、名古屋公演あり

<https://www.geigeki.jp/performance/theater266/>